

朝な 夕なの 読書三昧



平成23年度 第2号(2011.6.22)
岐高図書館

クラスではLHRで文化祭の計画をたて始め、梅雨の蒸し暑さを感じるこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか？
実力テストや進研模試などいろいろなテストが迫っています。この図書館だよりを読んで勉強疲れの気分を入れ換えてみてはどうでしょうか？

突撃！ とないの朝読書

～岩井秀成先生の場合～

Q 卒業して4年経って、母校に来てどのように感じてみえますか。

—新校舎になり、一気に学校の様子が新しくなったので、あまりの綺麗さに驚きました。ですが、勉強だけでなく、部活や行事にも熱心に取り組むという生徒の雰囲気は昔と変わってなかったので安心しました。

Q 何学部でどんな勉強していますか？

—大阪大学の基礎工学部で、プログラミングや数学を用いて、人工知能や機械学習について研究しています。有名な例では、アンドロイドやアシモなどが挙げられますね。

Q 大学の図書館と高校の図書館の違いを教えてください。

—専門書が多く、蔵書量もとても多いです。古い本から新しい本まで揃っており、インターネットで分からないような専門的なことも、大学の図書館なら調べることができます。ミーティングルームなどもあり、テスト前はよく仲間と勉強会を行ったりもします。

Q 大学生活の中で、高校のときの読書ライフとは、どのよう

に変わっていますか。

—高校時代は小説から雑学の本まで幅広く読んでいましたが、大学に入ってから、専門の数学や情報の本を読む機会が増えました。

Q 新しい岐阜高校の図書館をどう思いますか。

—朝に図書館を訪れると、昔よりも多くの生徒が勉強している姿が目に入りました。学習の場として、より使いやすくなったのだと思います。

Q 高校の時の本や図書館にまつわる思い出を教えてください。

—3年間を通して多くの本を読み、読書ランキング4位になったこともありましたが、読書はいつでも自分の心の支えになってくれたと思います。

Q 今までに読んだ本の中で心に残った本はなんですか。

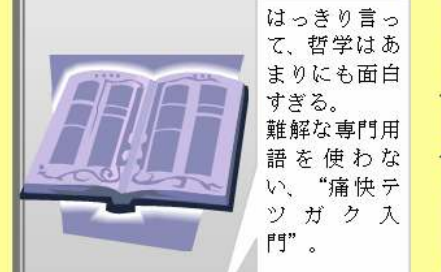
—理系として、とても印象深かったのは『哲学的な何か、あと科学とか』（著者：飲茶）です。今まで知っていたようで知らなかった科学の歴史的な経緯や概念というものについて書かれており、科学の持つ不思議に引き込まれます。岐高の図書館にも入っていますね。

今回は教育実習で本校においでになっている数学の岩井秀成先生と英語の伊藤祐太先生からお話を伺いました。お二人は高校時代図書館に親しんでおられ、実習中は図書館の指導にもかかわらずいただいています。高校時代の図書館に関する思い出や大学での読書生活、後輩へのおすすめ本などいろいろお話くださいましたので、ぜひ参考にしてください！

Q 最後に、後輩の生徒たちに読書に関するメッセージをお願いします。

—本は知識や多くのものの見方を与え、生活をより豊かにしてくれます。みなさんもたくさん本と触れ合って、自分だけの大切な本に出会えるといいですね。

岩井先生のオススメ本



はっきり言って、哲学はあまりにも面白すぎる。難解な専門用語を使わない、“痛快テンガク入門”。

岩井先生の写真

～伊藤祐太先生の場合～

Q 卒業して4年たって母校に来てどのように感じてみえますか？

—校舎が全て変わっていたので、まさか母校に来て迷うとは思っていませんでした。全てが綺麗になっているので、とても清潔に見えました。

Q 何学部で、どんな勉強をしていますか？

—東京大学の文学部の英文科で、文学作品（小説、戯曲、詩）の解釈や批評をしています。

Q 大学の図書館と高校の図書館の違いを教えてください。

—大学の図書館は蔵書数も多く、とても大きな建物になっています。書庫だけでも4階まであったりして、専門書が多く、借りたい本もたくさんあるんですが、高校よりもいかついイメージがします。

Q 大学生活の中で、高校生活の読書ライフとは、どのように変わっていますか？

—高校生の時に読んだ本が勉強ばかり、そのまま学科の専攻にも繋がっていますが、大学ではより客観的に本を読めるようになりました。

Q 新しい岐阜高校の図書館をどう思いますか？

—僕は、旧校舎の図書館のこじんまりした雰囲気が好きだったのですが、新校舎でも図書館自体はそんなに変わってはいない図書館だなと思いました。

Q 在学中は図書館には、よく通いましたか？

—本を読みにくるのはもちろんのこと、放課後にストーブの温まりに来たりしてました。

Q 今まで読んだ本の中で心に残った本は何ですか？

—高校の時に図書館で借りて読んだもので、サン・テグジュペリ「星の王子様」ヘミングウェイ「老人と海」サリンジャー「キャッチャー・イン・ザ・ライ」フィッツジェラルド「グレートギャツビー」（偉大なるギャツビー）が心に残っています。特に下の3つは大学の学部選択きっかけとも言える作品です。

Q 最後に後輩の生徒たちに読書に関するメッセージをお願いします。

—本にはいろいろな世界があって、本を読むことで様々なことを考えるきっかけになると思います。考えること
伊藤先生のオススメ本



とによって、物事をより客観的に捉えることができるようになるので、皆さんもぜひ本をたくさん読んでくれるといいと思います。

伊藤先生の写真

今日の局員オススメ本1

空の中 / 有川浩

20xx年、高度2万m付近で原因不明の航空機事故が多発した。その原因を探るべくメーカーの担当者、春名高巳と岐阜基地のパイロット、武田光稀は高空へ飛んだ。高度2万、その空域で彼らが見つけたものとは？
個性あふれるキャラクターに息を呑む展開。あっという間に物語に引き込まれていきます。また、「図書館戦争」や「阪急電車」でお馴染みの有川浩の初期の作品で、あの軽快な語りもあり読者を飽きさせません。ぜひ読んでみてください。

今日の局員オススメ本2

シカゴよりこわい町 / ベック・リチャード

片田舎の町に住むおばあちゃんの家で過ごしていた兄弟の話です。
二人の家は大都会シカゴ。話を聞けばさぞかし田舎の暮らしを楽しんだらと思うかもしれないがとんでもない。二人にとっておばあちゃんの家は「シカゴよりこわい町」。どこが「こわい」のかは読んでからのお楽しみ！この本の特に何が素晴らしいかというと、おばあちゃんのところまで過した夏の思い出やおばあちゃんがとてもいい人だということだ。おばあちゃんが孫たちを愛しているなんて一文も出てこないけれど、なぜか三人が固い絆で結ばれていたことが伝わってくる。そんな三人の大切な夏の思い出を
ご一読あれ！



夏【summer】:気温が上昇してだれてしまう時期。長期休暇があるため、全国の子供達が狂喜乱舞する時期でもある。(ただし、遊びに限る)

この通信・及び図書館全般についてのご意見・ご感想・ご要望などは、**岐高図書館編集部**までお願いします。
(直接または、カウンターにお願いします。)